



令和8年度 学校経営方針

～ 伝統を礎に、未来を創る～

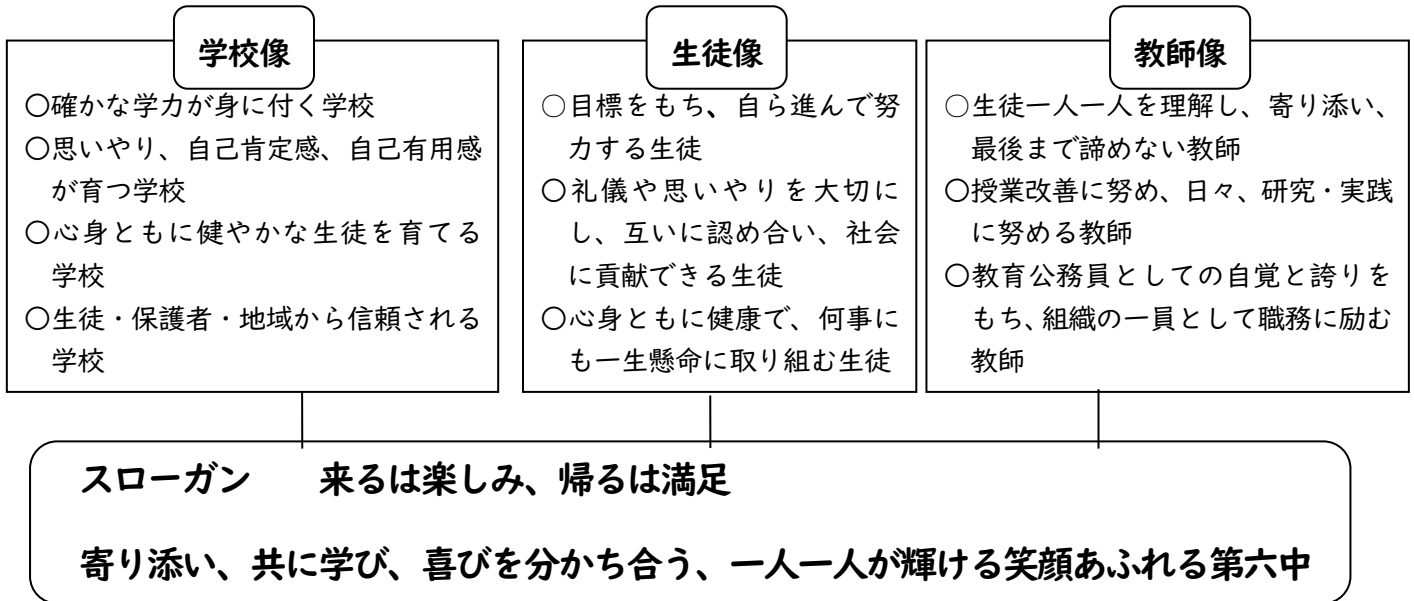
創立 79 周年

令和 8 年 4 月 1 日
足立区立第六中学校
校 長 葛木 有紀

1 学校の教育目標

自ら学び目標をもって努力しよう 互いに尊重し助け合おう 困難に耐え心と体を鍛えよう

2 目指す学校像、生徒像、教師像



3 学校運営の8つのキーワード

- (1) 組織力（クラス・学年・学校全体でチームワークが図れる組織力）
- (2) 健康とライフワークバランス（定時退勤の励行、業務の効率化・適性分担を図って、超過勤務削減）
- (3) 楽しくやりがいのある職場（あいさつが飛び交う活気のある学校、サービス事故・病気休職ゼロの職場）
- (4) 信頼・継続は力なり（現在の教師・生徒・保護者・地域の信頼関係をさらに深める）
- (5) 温故知新（良き伝統と、これからの時代に向けた新たなチャレンジ）
- (6) 落ち着いて授業に集中できる生徒・学校の維持（素直で一生懸命な生徒と教職員の信頼関係）
- (7) 不登校対策（未然防止・復帰のための対応策を組織として取り組み、不登校生徒を減らす）
- (8) ICT 機器の活用（ICT 機器の有効活用により、業務の効率化、学力向上を目指す）

4 学校の教育目標を達成するための基本方針

- (1) 人権と生命を尊重する教育の推進
 - ①教育活動全体をとおして、自他の人格を尊重し、多様な個性を認め合う態度を育む。
 - ②規範意識の育成を図り、社会の一員として責任ある行動を取り、よりよい社会の形成に寄与できる人格を育む。
 - ③自主・自律、協働の精神を育むために、「特別の教科 道徳」の授業改善を図る。
 - ④特別支援教育の視点に基づき、ユニバーサルデザインの環境整備や合理的配慮を提供し、全ての生徒の学びを保障する。
 - ⑤「学校いじめ防止基本方針」に則り、組織的な対応と関係機関との連携を強化し、全ての生徒が尊重される安全・安心な学校づくりを推進する。
 - ⑥不登校の未然防止や学校復帰に向けて、校内支援委員会を中心に、多様な生徒の状況に応じた組織的な支援体制を構築する。

⑦心理的安全性の高い環境をつくり、生徒一人一人が自分らしく成長できるよう、ウェルビーイングの向上を図る。

(2) 基礎的・基本的な学力の定着

- ①「足立スタンダード」に基づく授業実践により、ねらいの明確化と振り返りを徹底し、分かる喜びと学びへの自信を育てる。
- ②一人1台端末の活用を効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実践する。
- ③基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決し、自らの考えを表現する力を育む。
- ④「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進し、学習者が自ら問いを立て、探究する学習活動を充実させる。
- ⑤小中連携教育や地域連携を通し、社会の変化に対応したキャリア教育を推進し、主体的に進路を選択する能力を育成する。

(3) 基礎体力の定着と心の醸成を図る教育の推進

- ①豊かな心と健やかな体をバランスよく育み、生涯にわたる健康やスポーツへの関心を高める。
- ②食育を推進し、給食指導等を通して健全な食生活に必要な知識を深め、自己管理能力を養う。
- ③ボランティア活動や地域貢献活動への参加を通し、他者とつながる喜びを味わわせ、社会に主体的に参画する態度を育てる。

(4) 地域の特色に合った魅力ある教育活動の展開

- ①「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、地域住民や関係機関と目標を共有し、連携・協働した教育活動を展開する。
- ②防災教育（垂直避難訓練等）や安全教育を教科横断的に推進し、自他の安全を守り、社会の安全に寄与できる資質・能力を育成する。
- ③SDGsの視点を踏まえ、環境学習、福祉、国際理解等の探究活動を通して、持続可能な社会の構築に向けて主体的に行動する力を育てる。

(5) 特別支援教育

【特別支援教室】生徒一人一人の障害の状態を把握し、個々の課題に応じた自立活動指導を行う。特別支援教育コーディネーターは、校内支援委員会を活用し、学級・教科担任等と連携・調整を適切に行う。

【特別支援学級】様々な特性のある生徒に対し、読み・書きなどの基本的な力、健康でたくましい体力などの育成を図るとともに、様々な行事の機会を通して通常学級の生徒との関わりを深め、発達特性の理解や相互理解、思いやりの心を育てる。

(6) 服務について

- ①教育公務員としての自覚をもち、服務の厳正に努める。特に性暴力、個人情報紛失、不適切なSNSの送受信、不適切な指導については、全教職員で事故防止に努める。
- ②いかなる理由でも体罰は許されないことを肝に銘じ、生徒の指導に当たる。
- ③働き方改革を推進するため、在校時間を意識して、自らが業務の効率化や健康管理に留意し、教職員一人一人が業務の負担軽減を図り、長時間勤務の減少に努める。

5 今年度の重点目標（別紙 学校経営計画・自己評価書参照）

(1) 学力向上アクションプラン

- ①「勉強が楽しい」作戦⇒授業力向上と授業改善
- ②「勉強がわかった・できた」作戦⇒基礎学力の定着（放課後補充学習・授業、家庭におけるAIドリルの有効活用・サマースクール、中1勉強合宿（通所型）の充実）・学習コンテストの実施・朝読書の実施

(2) 学びのユニバーサルデザインの実現

- ①人権教育の推進 ②PBS（ポジティブ行動支援）による自己肯定感、自己有用感の向上 ③WEBQUの有効活用 ④特別支援教育・教育相談の充実 ⑤キャリア教育の推進

(3) 信頼される学校づくり

- ①小中連携教育、交流活動の充実 ②家庭との連携、協力 ③地域との連携・協力